

# 千葉県共同店舗協議会

会長 積田 坦



## 【共同店舗協議会の沿革】

千葉県共同店舗協議会は昭和61年11月に「県内の共同店舗組合の適正な運営と発展向上を推進するとともに、会員相互の連絡協調を図る」ことを目的に設立された。現在の会員数は13組合。多いときは26組合あった協議会も、20年の歴史の中で大きく変化してきた。

この間、協議会は県内の商業関係団体と共催で多くの催事を行なったのははじめ、平成8年には「共同店舗運営研修全国大会」を千葉県で開催して、その存在を県内外にアピールした。さらに傘下の共同店舗組合は、国の中小小売商業対策の一環として千葉県をはじめ関係機関の指導の下に、小売商業の経営の近代化と

地域住民にコミュニティーの場を提供する等、地域の発展に大きく貢献してきた。

## 【組合の概要と積田氏の横顔】

積田坦（つみた・ひろし）氏は千葉県共同店舗協議会の会長で、臼井ショッピングセンター（協）の顧問。

臼井ショッピングセンター（協）は、駅の移転を伴う大規模な土地区画整理事業が行なわれたのを機会に、積田氏ら当時の商店街の若手経



積田顧問（左）と石渡事務局長（右）



レイクピア（臼井ショッピングセンター協）

## ■千葉県共同店舗協議会

所在地	千葉市中央区千葉港4-2 千葉県中小企業団体中央会内
代表者	積田 坦
会員数	13組合

## ■臼井ショッピングセンター（協）

所在地	佐倉市王子台1-23
代表者	野口 恭義
会員数	14名（出資金3,500万円）

営者が駅前商店近代化研究会を立ち上げ、それが母体となって昭和54年2月に設立された。

昭和59年3月には総面積3万1490㎡の「レイクピア」をオープン。このマスタープランは「臼井方式」といわれ、大型店と協同組合が用地と建物の持分を共有し、店舗レイアウトにおいても地元専門店を優先した当時としては画期的な方式であった。その後何度となくリニューアルを行い、地域一番店の地位を確保している。

積田氏は学校を卒業すると、地元の佐倉市役所に就職。その後、お父さんの創業した株積田呉服店に後継者として勤務し、現在は代表取締役である。共同店舗内ではクリーニングの取次ぎとタバコの販売を行なっ

ている。

積田さんは事業に精励する一方、組合の副理事長、理事長、顧問を歴任。共同店舗協議会の会長、千葉県中小企業団体中央会の理事をはじめ多くの要職に就き地域社会の発展に貢献してきたことが認められて、昭和56年には経済産業大臣表彰を受賞した。積田さんのこれからの夢をお伺いしたところ「特にありませんが、私も商人のせがれ、家族と従業員を大切に、生涯現役を貫いていきたい」とのことでした。

趣味は旅行と写真撮影。ご家族は奥様と娘さんと倅さんの4人家族。佐倉市在住。昭和16年佐倉市生れ。



県外視察研修、秋田県鹿角市（平成18年4月）